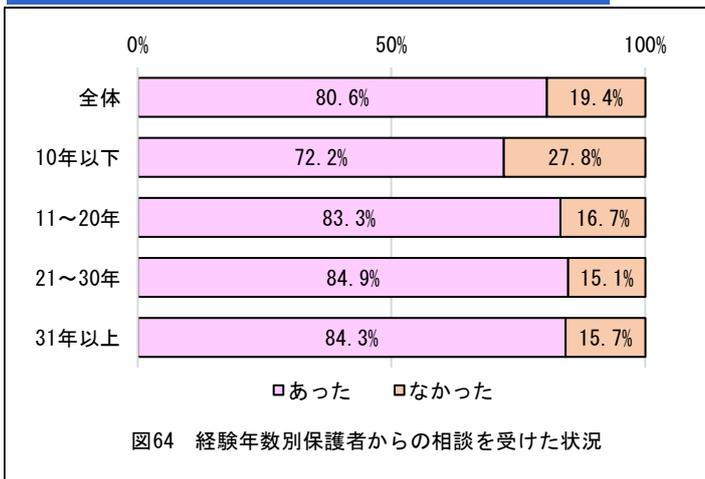


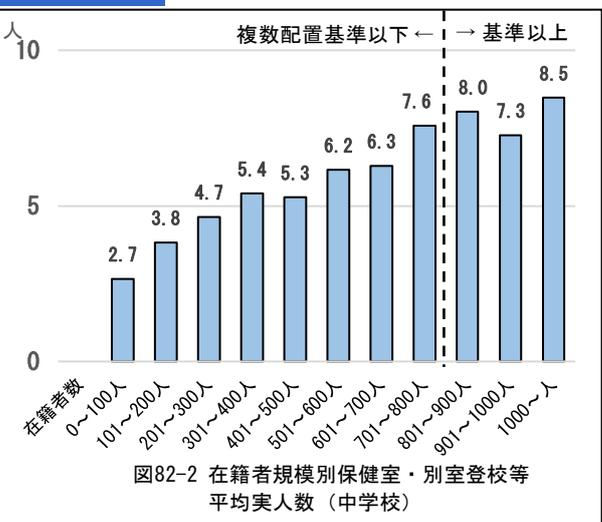
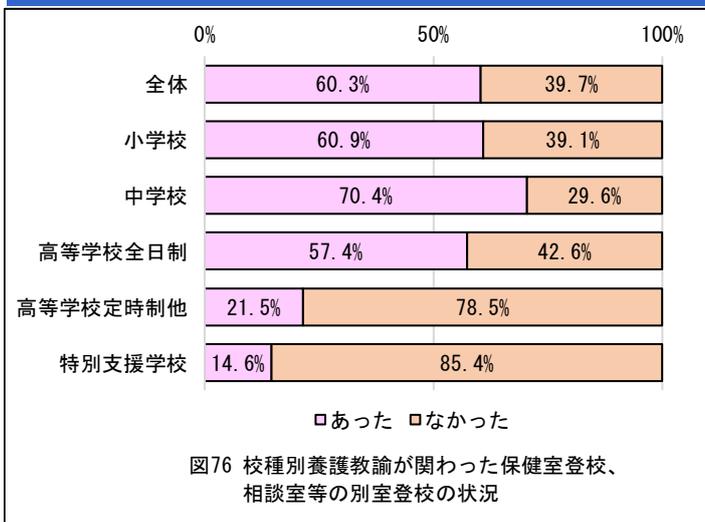
7 相談の状況（令和3年度分）



子供・保護者・教職員からの相談を受ける割合は、前回調査と同様に高い。経験年数「10年以下」は、保護者・教職員からの相談を受ける割合が他の経験年数に比べて若干低い。

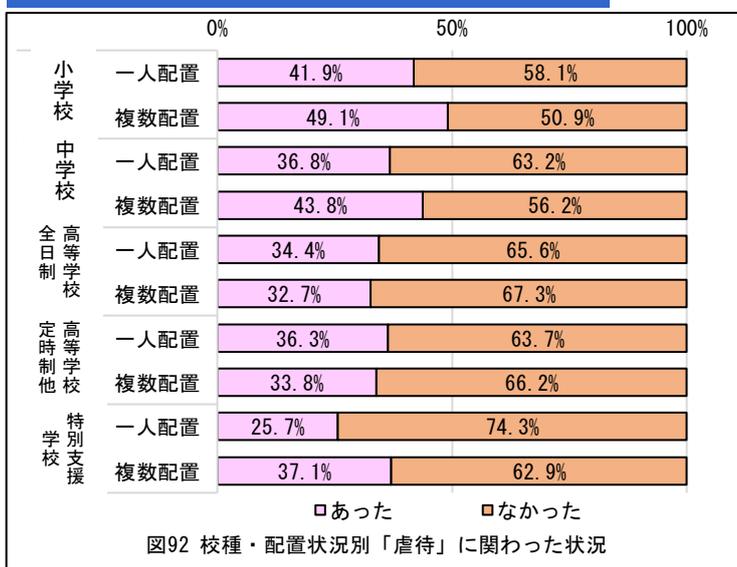
子供からの相談を受けた内容の割合で最も高いのは、全体で「人間関係に関すること」で、次いで「家庭又は家族に関すること」である。保護者、教職員からの相談を受けた内容で最も高いのは、どちらも全体で「子供の心身の健康に関すること」で、次いで「子供の登校しぶり・不登校・保健室登校等に関すること」である。

8 保健室登校、相談室等の別室登校の状況（令和3年度分）



全体で養護教諭の60.3%が、保健室登校、相談室等の別室登校の子供に関わっている。関わった実人数は、全校種で「1～5人」が最も割合が高いが、中学校では「6人以上」の割合が他校種に比べて高くなっている。関わった実人数の校種・配置基準別では、小学校・中学校・高等学校全日制ともに、「配置基準以下」の在籍校の養護教諭が、「配置基準以上」の学校と同程度もしくはそれ以上の人数の保健室登校等の子供に関わっている。特に中学校では他校種に比べ保健室登校等で関わる子供の数が多く、配置基準以下の701～800人の在籍校が、配置基準以上の学校と同程度もしくはそれ以上の保健室登校等の子供に関わっている。

9 虐待について（令和3年度分）



校種・配置状況別養護教諭が「虐待（疑いを含む）」の事例に関わった割合は、小学校・中学校・特別支援学校で「一人配置」に比べ「複数配置」が高い。

校種別養護教諭が「虐待（疑いを含む）」の事例に関わったきっかけに校種の違いがある。校種毎の割合で最も高いものは、小学校・特別支援学校で「教職員からの相談」、中学校・高等学校全日制・定時制他で「本人からの訴え」である。